

ソーシャル・キャピタルの質的調査法

神原 理*

1. はじめに

本稿の目的は、ソーシャル・キャピタルの質的調査法について検討していくことにある。ソーシャル・キャピタルに関する統計的な調査については、既に世界各国で取り組まれており、多大な研究成果が蓄積されている。他方、質的調査法に関しては特に日本国内では少なく、今後の研究成果が待たれるところである。ソーシャル・キャピタルの研究のみならず、社会科学における調査研究では、量的・質的双方のアプローチが相互補完的な役割を果たしながら進展していくことが一般的には最善であると考えられる。そこで本稿では、Nara Dudwick, Kathleen Kuehnast, Veronica Nyhan Jones, and Michael Woolcock, *Analyzing Social Capital in Context: A Guide to Using Qualitative Methods and Data*, World Bank Institute, 2006において提示されているソーシャル・キャピタルの質的調査法をベースに、関連する他のアプローチを取り入れながら要点を整理し、今後の質的調査のための指針となるべく知見をまとめていく。

2. ソーシャル・キャピタルの質的調査法

*Analyzing Social Capital in Context*の目的は以下の6項目となっている。

- ・ 参与観察と他の質的調査法に焦点を当てることで、ソーシャル・キャピタル・リサーチの統合的アプローチがもつ価値を示す
- ・ ソーシャル・キャピタル・リサーチが、より望ましい発展的成果につながるようなプロジェクトと政策に対してどれだけ実践的な示唆をもちうるかを明示する
- ・ ソーシャル・キャピタルの6つの側面を把握するための質的調査の適用方法について詳細な指針を示す
- ・ 現実のフィールド経験にもとづいて質的技法の潜在的な問題点について明示する

* 専修大学社会関係資本研究センター研究員・商学部教授

- ・リサーチャーが調査手法をうまく調整できるよう質的アプローチに関する追加的な手法を示す
- ・タスクマネジャーと相対する国とがソーシャル・キャピタル・リサーチの設計に関わるよう促進する

2-1. ソーシャル・キャピタルの分析フレームワーク

Nara Dudwickらは、ソーシャル・キャピタルを把握するための分析的フレームワークとして、以下の6つの側面を提示した。

Dimension 1 : グループとネットワーク (groups and networks)

Dimension 2 : 信頼と結束 (trust and solidarity)

Dimension 3 : 集合的行動と協同 (collective action and cooperation)

Dimension 4 : 情報とコミュニケーション (information and communication)

Dimension 5 : 社会的結合と包摂 (social cohesion and inclusion)

Dimension 6 : 権限委譲と政治的行動 (empowerment and political action)

そして、それぞれの特性をより詳細かつ明確に理解するためのアプローチとして、以下のような調査手法を示した。

Dimension 1 : グループとネットワーク

共通の目的を達成するための資源へのアクセスと協力を可能にするグループとネットワークを理解することは、ソーシャル・キャピタル概念に関する重要な部分である。情報ネットワークは、利用可能な資源の最大活用の手助けとなる協同と協調、相互支援のための努力のなかだけでなく、コミュニティ内での自発的でインフォーマルで制約されない情報と資源の交換のなかでも確認できる。情報ネットワークは、水平的関係と垂直的关系をとおしてつながる可能性があり、市場や親族関係、友人関係を含む様々な環境要因によって形づくられる。

アソシエーション（組合や団体）で構成されるもうひとつのネットワークでは、メンバーは水平的なつながりをもっている。こうしたネットワークはしばしば、共通の目的を達成するために構成員がどのように協同するかを決定する組織構造や役割、ルールを明確に示してきた。これらのネットワークはまた、コミュニティにおける自助と共助、結束と協同的な努力を育む潜在性を有している。他方、（水平的な）ソーシャル・キャピタルの「つながり (linking)」は、コミュニティとそのリーダー間の関係と相互作用を含み、村落や政府と市場との間の幅広い関係にまで拡大する。

以下の質問は、様々なタイプの社会組織と（公式と非公式の）ネットワークへの人々の参加特性と範囲、そしてそれらのネットワーク内で起きる取引の範囲を理解するためのものである。この質問はまた、所与のグループにおけるメンバーシップの多様性、リーダーシップの選択方法やメンバーの関与が何度も変化する方法についても

考慮している。

A 1. コミュニティの背景 (context) : 資源とサービスの利用可能性とアクセス可能性
 ここで明らかにすべき項目は以下のとおりである。

① 様々な資源の分布とアクセス可能性

- ・ そのコミュニティでは、どのような主要資源が利用可能か (天然資源を含む、文化的・娯乐的施設、市場、通信インフラなど)? これらの資源へのアクセスが家族とグループ内でどのように配分されているのか?
- ・ 富や土地、不動産、教育、名声といった財産は、そのコミュニティでどのように分布しているか? 言い換えれば、人口の何%がこうした財産にアクセスしてきたか?

② 公的・社会的サービスの内容とアクセス可能性

- ・ そのコミュニティでは、どのような主要サービス (社会、自治体、政府などのサービス) が提供されているか? 家族とグループ内に提供されるこれらのサービスにはどうやってアクセスしているのか?

③ 資源やサービスへのアクセスを阻む要因

- ・ そのコミュニティが直面しているもっとも大きな障害は何か (環境上の問題や地理的問題、民族的な緊張関係、貿易ルートの乏しさ、水源や土地の利用権など)?
- ・ 貧しい、或いは辺境におかれているグループは、コミュニティの資源やサービスへのアクセスに際してより大きな障害に直面しているか?

A 2. グループとネットワークへのアクセス

① 公式・非公式のグループやアソシエーションとネットワークの特性と役割

- ・ そのコミュニティには、どのような公式・非公式のグループやアソシエーションとネットワークが存在しているか?
- ・ いくつかの公式・非公式なグループに焦点を当て、それらの明示的・暗示的な機能についてまとめる。そのグループはどれくらいの頻度で活動しているか? 非公式なグループは特別な行事 (結婚式や出産、死亡など) にもとづいているのか? グループのメンバーが集まる他のきっかけには何があるか?
- ・ そのグループやネットワークでは、誰がリーダーシップや人々を動員する役割を担っているのか?
- ・ こうしたグループでは、どのような要因がリーダーシップに貢献しているのか (年齢、選挙、教育、社会経済的地位、ジェンダーなど)?
- ・ そのグループやネットワークにおける役割の多様性を描写する。
- ・ 人々は日常生活における問題を解決するために、どのようなネットワークやグループに典型的に依存しているか?

②グループやネットワーク内での交換特性

- ・コミュニティのグループやネットワークでは何が交換されているのか（商品やサービス、親切な行為、情報、家財、道徳的支援など）？
- ・その交換の最も重要な目的は何か（基本的な欲求の充足、収入増、基本的な社会的義務の遂行、潜在的に有用な関係の維持と拡大、或いはそれら幾つかの組み合わせ）？

③支援者の諸特性

- ・日常の行動のなかで支援をする傾向にある人は誰か？こうした支援は、どのような状況で、どうやって、どれくらいの頻度で生じているか？
- ・人々は、どのようなグループや個人、ネットワークには道徳的あるいは社会的に支援する義務があると感じているか？

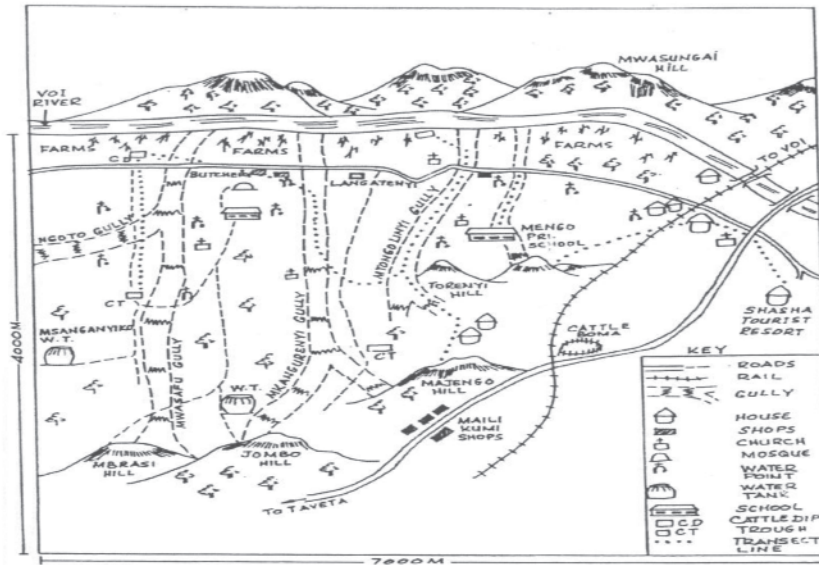
④ネットワークの特性と役割

- ・最も重要なネットワークを明らかにして図示するために鍵となる回答者に質問をする。多様なネットワークのそれぞれの人数を推定する。
- ・グループやネットワークは、どれだけ多様な公的・私的な環境や出来事で集まるのか？どれくらいの人が集まるのか？これらの会合はどれくらいの頻度で開催されるのか？
- ・個人や家族はどうやってネットワークに参入し関係を維持するのか？
- ・ネットワークのメンバー内では、どのような特性に価値がおかれているか（信頼性、相互利益、協同、誠実さ、コミュニティへの敬意など）？
- ・コミュニティのなかでは、誰が最も社会的あるいは経済的に孤立した人々か？その孤立は、彼らが所属するネットワークの種類や範囲とどのような相関関係があるか？

B.グループとネットワークを把握するための他の手法

トランセクト・ウォーク（transect walk: 横断的フィールド調査）は、対象とするコミュニティにおける空間的相違の重要性を調査チームが探索し、よりよい理解をするための参与的手法のひとつである。調査チームは地元のガイドとともに居住地から周辺部までを歩く。地元の人々は、外部者が見落とすような物事をしばしば見ていることから、彼らの認識を描写する際にはガイドが主導権をとり、調査チームは観察記録をとる。調査の後、調査チームと地元のガイドはトランセクト・ダイアグラム（踏査したエリアの形式化された図）を作成する（図表1）。

図表1：トランセクト・ダイアグラムの例



Source: Elizabeth Oduor-Naoh, Isabella Asamba, Richard Ford, Lori Wichhart, Francis Lelo, *IMPLEMENTING PRA: A Handbook to Facilitating Participatory Rural Appraisal*, National Environment Secretariat, Ministry of Environment; National Resources and Program for International Development, Clark University; and Egerton University, 1992.

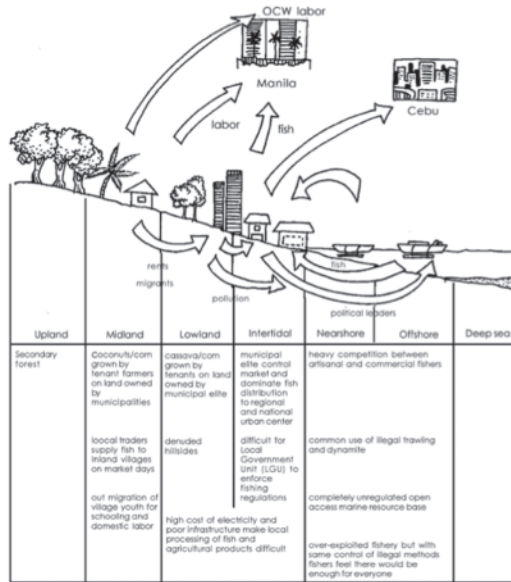
トランセクト・ウォークはコミュニティに関する以下の側面を探索するものである：

- ・重要なサブコミュニティや近隣を含むコミュニティの自然的・地理的要因；地方自治体といった公的な境界；分配される資源（水など）によって定められるような非公式な境界
- ・コミュニティの資源やインフラストラクチャー、施設の位置
- ・コミュニティにおける地理的機會や制約を形成する要因。孤立、農業生態的領域、洪水のリスク、蔓延するマラリア、HIV/AIDS
- ・民族、ジェンダー、言語、宗教、部族、社会的階級への所属によって定義されるような重要な社会グループ
- ・区画やインフラストラクチャーの配置に反映される重要な社会的、政治的、かつまたは経済的な境界

トランセクト・ウォークから得られたデータは、地元の地図や国勢調査、土地登記情報、その他の関連する有用な資料を組み合わせることでトライアングレーション（triangulation；誤差の修正）ができる。視覚的な図面は、トランセクト・ウォークの唯一のアウトプットではなく、その図に情報を付加するためのものであり、現地での作業と推測に関する文書を起こすべきものだというにも注意すべきである。

図表1で示したトランセクト・ダイアグラムの他にも、図表2のように資源の分布と諸特性（利用や循環プロセス）を連続的な関係図として表す方法がある。

図表2：トランセクト・ダイアグラムによる連続的關係



Source: Julian Gonsalves, Thomas Becker, Ann Braun, Dindo Campilan, Hidelisa de Chavez, Elizabeth Fajber, Monica Kapiriri, Joy Rivaca-Caminade, and Ronnie Vernooy (eds.), *Participatory Research and Development for Sustainable Agriculture and Natural Resource Management: A Sourcebook Volume 3: Doing Participatory Research and Development*, International Potato Center-Users' Perspectives With Agricultural Research and Development, 2005.

Dimension 2：信頼と結束

ソーシャル・キャピタルのこの側面は、親族や近隣、仲間や知人、重要なサービス提供者、そして見知らぬ人々でさえ彼らが自分たちを助けるか（少なくとも）傷ついたりしないかのいずれにせよ、頼ることができる人々を感じる範囲に関係している。所与の社会背景における「信頼」の適切な定義は、人間関係の複雑さを理解する上では必要不可欠である。時折、信頼は選択を意味し、他の場合には、既成の付き合いや親密なネットワークにもとづく必要不可欠な依存を反映する。この連続体の両極を識別することは、人々の社会的関係の範囲と、こうした関係が、困難な、あるいは急速に変化する状況に耐える可能性を理解する上では重要である。

A. コミュニティの背景と歴史

①コミュニティの人口統計学的特徴や史的特性

- ・家族のタイプを含む、コミュニティの人口の規模と、人口統計学的な構成はどうなっているか？
- ・コミュニティの歴史はどうなっているか？ どういった重大な出来事や自然災害、繁栄かつまたは福祉レベル (well-being) における重要な変化がコミュニティに影響を及ぼしてきた (及ぼしている) か？

②グループやネットワークのメンバーの親密度

- ・グループやネットワークのメンバーは互いにどれくらい親しいか？
- ・所与の地域やコミュニティで人々はどれだけ長く一緒に暮らしてきたか？ 彼らはどれだけお互いをよく知っているか？

③社会的グループの特性

- ・コミュニティにおける重要な社会的グループはどこか (社会的階級や宗教、民族、人種、部族的な所属、地域などによって明示されるグループなど)？
- ・コミュニティにおける社会的異質性と同質性はどのようになっているか？
- ・最近、コミュニティに新しいグループが入ってきたか (避難民や経済的移住者など)？
- ・男性と女性双方にとって何が最も重要な生計手段か？ 異なる民族グループではどうか？

B. 地域の基準、統治形式、信頼の関係

①相互作用と信頼関係の諸特性

- ・何が相互作用の文化的、社会的基準になっているか (建物や塀、居住地域、より広いコミュニティなど)？
- ・国家と地方の政府は、グループ間と個人間の信頼にどのような影響を与えているか？
- ・個人的な、あるいは家族の問題を抱えたとき、人々はどの組織 (公式・非公式) に頼るか？
- ・異なる類の支援に関して人々は誰を頼りにするか (家財、労働、金銭、求職、大学進学など)？
- ・信頼はコミュニティでどのように広まっているか (基本的には広範な親族や一族内か、特定のネットワークと、または地域に及んでいるか)？

②不信や分裂の経緯と特性

- ・家族やグループ内に不信や疑念のパターンは存在しているか？
- ・関連する分裂は何か？ これらの分裂の歴史はどのようなものか？

C. 信頼と結束を把握するための他の手法

①ヒストリカル・マトリックス

トランセクト・ウォークは、コミュニティの構造と施設利用の空間的パターンに反映される社会的な分裂に焦点を当てる。他方、ヒストリカル・マトリックス (historical matrix) は、コミュニティやグループ内の変化を調査するものである。表の横軸に沿って時代が記録され、議論の対象となる資源や特定の項目が縦軸に沿って列挙される。様々な時点での相当量の利用可能な資源を示すことで、人々はコミュニティにおける様々な資源の視覚的な一覧表 (図表3) を示すことができる。

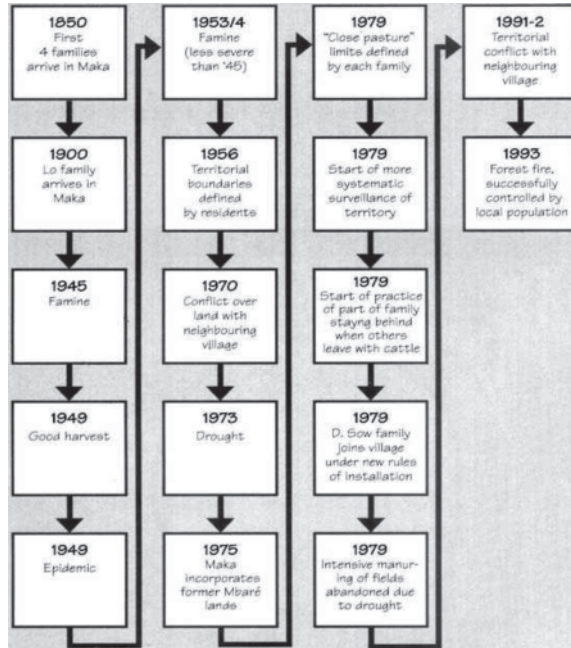
図表3：ヒストリカル・マトリックスの例

	コミュニティの年長者ら が子供の頃 (1935年頃)	自立した頃 (1960年)	学校が建設された頃 (1975年)	現 在
村の人口				
社会的グループの 多様性				
全員を支援するた めのコミュニティ 全体でのプロジェ クトの頻度				
年間行事への参加 者の広さ				
家族間でのギフト 交換の頻度				
自然災害に直面し た頻度				
コミュニティの資 源問題における国 家的仲裁の大きさ				

Source: James T. Thomson and Karen Schoonmaker Freudenberger, *Crafting institutional arrangements for community forestry*, FAO (Food and Agriculture Organization of the United Nations), 1997, appendix 1.

ヒストリカル・マトリックスの他にも、歴史的に重要な出来事を時代に沿って記録するヒストリカル・プロフィール (historical profile、図表4) による記録も有効な手法である。

図表4：ヒストリカル・プロフィール



Source: James T. Thomson and Karen Schoonmaker Freudenberger, *op.cit.*

②調査日誌

調査日誌の作成 (diary entries) は、主要な回答者へのインタビューと、あるいはグループ・ディスカッションをとおして収集したデータを補足する。一般的に、以下の行動が調査日誌に記録される。

- ・分析データ上にさらに記録されるインタビュアーの日々の思考と考察 (地元スタッフの質的調査の訓練を受けているとき、熟練した調査員の「視点 (lens)」はしばしば考慮されていない)
- ・調査地域の環境と人々の行動の観察記録

③資源の交換マトリックス

資源の交換マトリックス (resource exchange matrix) は、特定のネットワークにおいてどのような財とサービスが交換されたか、こうした交換の目的とともに明示するものである。以下に示した2つの図表は、キルギス共和国でのソーシャル・ネットワーク調査 (Kuehnast and Dudwick 2004) から引用したもので、

社会的信頼を調査するための有効な手法として示している。第一のマトリックス（図表5）では次のような質問を取り上げている。「あなたは誰に何をあげていますか?」「あなたは誰から何をもらっていますか?」そして、マトリックスにはインタビュアーが以下のような回答のひとつを用いて書き込まれる。「いつも (always)」「ほとんどの時間 (most of the time)」「ときどき (sometimes)」「滅多にないか決してない (seldom or never)」

図表5：資源の交換マトリックス－1

交換された財／サービス	誰に何をあげたり／もらったりしていますか？			
	自分よりも豊かな人々	自分よりも貧しい人々	自分とほぼ同等の人々	密接に関係する家族（兄弟、両親、子供）
お 金				
食 べ 物				
衣 類				
医 薬 品				
学 用 品				
家 庭 用 品				
家庭用器具				
家 具				
潜在的な雇用主や医者、学校の理事、その他影響力のある人々への紹介				
重 要 な 情 報 (仕事や人道的支援など)				
他の世帯に住む 家族構成員				
臨時に無報酬で何らかの支援に貢献している家族構成員				
現物でのサービス提供 (子守り、料理、家の修繕など)				
その他の交換（詳細に）				
その他（詳細に）				

Source: Kathleen Kuehnast and Nora Dudwick, *Better a Hundred Friends than a Hundred Rubles? Social Networks in Transition -Kyrgyz Republic*, World Bank Working Paper No.39, 2004, Annex B.

第二のマトリックス（図表6）は、キルギス共和国の田舎のある家族にとって不可欠な人々の種類を示したもので、「あなたは支援や援助を求めて誰を頼りにしますか？」という質問をしている。

図表6：資源の交換マトリックス-2

ネットワーク	支 援 を 頼 り に す る 人		
	基本的欲求の充足	社会や経済的状況の改善	社会的関係の維持
親密な家族関係 (兄弟、両親、子供)	ほぼたいてい	ときどき	いつも
近隣の友人	ときどき	ときどき	ときどき
近 隣	ほぼたいてい	ほぼたいてい	ほぼたいてい
都会の親戚	ときどき	ときどき	ときどき
田舎の親戚	ほぼたいてい	ほぼたいてい	ほぼたいてい
都会の友人	決してない	決してない	決してない
田舎の友人	決してない	決してない	ときどき
仕事仲間	決してない	滅多にない	ときどき
アソシエーション のメンバー	決してない	決してない	決してない
N G O	決してない	決してない	決してない
宗教団体	決してない	決してない	決してない
コミュニティの年長者か 伝統的なリーダー	ときどき	ときどき	ときどき
慈善事業	決してない	ときどき	決してない
その他（詳細に）			

Source: Kathleen Kuehnast and Nora Dudwick, *op.,cit.*, 2004, Annex B.

Dimension 3：集合的行為と協同

集合的行為と協同は信頼と結束の側面と密接に関係しているが、コミュニティの協同プロジェクトおよび問題や難局の一方に対して、人々は他者とともに行動を起こすのかどうか、そして彼らはどのようにして他者とともに行動を起こすのかについて、この側面の方がより深い洞察をもたらす。それはまた、参加の規範に関するコミュニティの期待をメンバーが裏切る結果としてもみなされる。この側面を理解するために行われる公式・非公式なコミュニティのリーダーや、NGO、アソシエーション、組合のリーダー、あるいは他のグループ（主要な回答者）へのインタビューは、フォー

カス・グループでのディスカッションで収集されたデータのトライアングレーションに非常に有効である。

A. コミュニティの背景と歴史

①コミュニティにおける重要課題と協力関係

- ・人々はコミュニティで何が最も差し迫った問題だと考えているか？彼らはそれを重要性の点からどのようにランクづけているか？
- ・それらの問題を解決するために、コミュニティのメンバーはどの程度の範囲まで互いに協力しあうのか？

②集合的行動への影響要因

- ・どのような文化的、社会的伝統、あるいはコミュニティの伝統が、相互支援や協同、集合的行動のパターンに影響を及ぼしているか？
- ・国家的、地域的、かつまたは地方自治体の形式は、どのように集合的行動に影響を及ぼしているか（それらはコミュニティの組織体にとって制約になっているか、あるいはその代わりに、学校の維持・補修のように公的基金が不足している時には非公式な支援を求めているか）？

③集合的行動の経過と特性

- ・コミュニティ内（あるいはコミュニティの一部）で起こってきた集合的行動に関する最近の例を記述する。これらの行動の経過と成果はどのようなものだったか？
- ・その行動の主導者は誰か？どのようにして人々は集まったか？

④集合的行動への動因と制約・排除、および規範

- ・社会的、文化的、法的抑制が特定グループの参加を制限しているか（女性、若者、貧困層、マイノリティなど）？
- ・いくつかのグループや居住者、かつまたは家族は、他の人々よりも共に行動する傾向にあるか？もしそうなら、なぜか？
- ・いくつかのグループや居住者、かつまたは家族は、集合的行動から自分たちを排除する、あるいは排除される傾向にあるか？もしそうなら、なぜか？
- ・どのような類の抑制が、ともに行動することへの人々の能力や意欲を制限しているのか（機会の欠如、成果に対する信頼や確信の欠如、動員する人への疑念など）？
- ・コミュニティにおける集合的行動について期待された規範を破ることに、どのような社会的制裁がなされるのか？

B. 協同と集合的行動を理解するための他のグループ活動

①課題の順位づけと補足

- ・コミュニティのリーダーやフォーカス・グループに、コミュニティ内でののおよそ6つの主要な問題を挙げ、重要なものから順位をつけてもらう。そし

て、順位づけの結果の正確さを確認しトライアンギュレーションするために、引き続き具体的に、誰が、何を、どこで、なぜといった質問で補足していく。

ランクづけは、それらの項目に優先順位をつけるだけでなく、グループの抱える問題や関心事、かつまたはニーズに関する情報を引き出すために有効な手法である。例えば、都市に居住する若い女性グループは、以下のようなリストとランキングを示すかも知れない（1が最も差し迫った問題）。

図表7：コミュニティ問題のランキング

問題	優先順位
交通	3
失業	4
犯罪と暴行	2
街頭	1
ゴミ収集	6
公衆電話	5

Source: Poverty Group, Poverty Reduction and Economic Management Network, *Consultations with the Poor: Methodology Guide for the 20 Country Study for the World Development Report 2000/01*, The World Bank, 1999.

②課題解決のための集合行動

- ・これらの問題を集合的に解決するために、コミュニティではどのような活動が生じたか？

Dimension 4：情報とコミュニケーション

情報へのアクセスを高めることは、貧しいコミュニティが彼らの福利（well-being）に影響を及ぼすような問題に対する発言力を高めるよう支援するための中心的なメカニズムとして認識されてきている。以下の質問は、コミュニケーションのインフラストラクチャーへのアクセス範囲だけでなく、コミュニティ全体としての問題や、市場の状況、公共サービスに関する情報を家族が受け取り共有する方法と手段を明らかにすることを意図している。

A. コミュニティの背景と歴史

①ローカル・ソースと情報チャンネル

- ・コミュニティにおける情報アクセスに関する最近の歴史的背景は何か？
- ・既存のコミュニケーション・ソースとインフラストラクチャーについて、実際に知覚できるそれらの信頼性、正確さ、利用可能性、それらのソースが実

際に利用される範囲に関する一覧を作成する。

- ・何が地域の資源と情報チャンネルとして好まれているのか？

②情報ソースと利用可能性

- ・コミュニティには、どのような非公式の情報ソースが存在しているか？コミュニティのどのメンバーがそうしたソースに含まれている、あるいは排除されているか？
- ・様々な家族かつまたはグループに対して、どのような情報が多様なネットワークをとおして利用可能か（コミュニティ内には差別的な分布があるか）？
- ・様々な家族と、あるいはグループに対して、どのような情報が利用不可能か（コミュニティ内では何が差別的な分布の境界になっているか）？

B. 情報とコミュニケーション・チャンネルの分布図を作成するための他の手法

①メディア分析

公式なコミュニケーション・チャンネル（パンフレットや新聞、公共空間に掲示されているポスターだけでなく、現地で利用可能な印刷媒体、ラジオとテレビ局など）のメディア分析は、インタビューを補足することもできる。内容分析（何が議論され、議論されていないか、正確さや歪みのレベル、支配的なステレオタイプなど）は、国家的かつまたは地域的な出来事や政策、法律などについての利用可能な情報の種類に対して別の観点をもたらす。

Dimension 5：社会的結合と包摂

社会的結合と包摂は、先に示したソーシャル・キャピタルの4つの側面と密接に関係しているが、この側面は社会的な絆（bonds）の強さと、それらがもつコミュニティ・メンバーの包摂や排除に至る二重の潜在性についてより明確に焦点を当てている。結合と包摂は、結婚式や葬式といったコミュニティのイベントや、結束を高め社会的結合を強固にし、コミュニケーションを高め調和のとれた活動に関する知識を提供し、市民意識と利他的行動を促し共同体の意識を發展させるような活動をとおして明らかにすることができる。

A. 関係からの包摂かつまたは排除

①結合と対立、分化と排除の要因とパターン

- ・どのような要因がコミュニティにおける結合を支えているのか？
- ・ネットワークとグループ内で意見の不一致が頻発しているか、あるいは対立が生じてさえているか？
- ・機会、市場、情報とサービスに関して、コミュニティでは分化と排除のどのようなパターンが存在しているか？
- ・政治的参加における包摂かつまたは排除のパターンは何か？
- ・どれくらいの頻度で、異なる社会グループの人々同士が結婚するか？

②差別や孤立化の要因

- ・社会的、あるいは地方自治体のサービス受益者内における社会的差別の危険性は何か？どのような社会経済的、政治的、宗教的要因が、その差別に作用しているのか？
- ・公共サービスとその支出が最も貧しくて脆弱なグループに到達するのを妨げているのは何か？その理由は、民族的背景、ジェンダー、政治的指針、あるいは地理的孤立に関係しているのか？

B. 対立のパターン

①対立の要因と経緯、パターン

- ・コミュニティと家族レベルで何が対立のパターンになっているか？
- ・対立が暴力へとエスカレートしていったのはいつか？
- ・過去5年にわたって、コミュニティ内ではどのような類の対立が生じてきたか？過去10年ではどうか？それ以前ではどうか？
- ・ネットワークと、あるいはグループのメンバー内では、何が日々の対立のきっかけとなっているのか（資源、競争、重大な社会的境界、社会経済的不公平など）？
- ・そうした対立に関わっている主要な人物は誰か？
- ・地域的対立の頻度、激しさ、継続期間はどれくらいか？

②対立の解消方法

- ・コミュニティでの対立の解決を促すために、どのような類の調停がなされてきたか？それらは機能してきたか？なぜ機能したか？どれくらいの期間機能していたか？
- ・どのような類の懲罰が一般的か？
- ・どのような形の裁きが一般的に受け入れられているのか？

C. 社会的結合と包摂を把握するための他の手法

①メディア分析

学校のテキストや一般的な文学作品の内容分析をともに行うメディア分析は、排除と対立のパターンを支持する社会グループ（女性、マイノリティ、排除されたグループ）の否定的なステレオタイプを明らかにすることができる。ベン図（Venn diagram）とヒストリカル・マトリックスもまた有効である。

②対立リスクの選別（conflict risk screening）

対立リスクの選別は、コミュニティにおける対立の潜在的リスクの程度を図るために役立つもうひとつの手法である。リスクを選別するプロセスは、対象となるコミュニティにおいて悪化する環境を把握するための8つの指標にもとづく質問からなる。一般に、指標の数が明白な増加を示すにつれて、対立分析を行う重要性もまた高まる。（コミュニティ・レベルと密接な関係があるだろ

う) マクロレベルでの対立リスクを評価するために実質的に用いられてきた指標は

- ・ 過去 10 年間に於ける暴力的な対立
- ・ G N P の低さ
- ・ 政治体制の不安定性
- ・ 武装化
- ・ 民族的支配
- ・ 活発な地域的対立
- ・ 若者の高い非雇用率

③組織分析 (institutional analysis)

組織分析は、どの組織が異なるグループの視点から地域の結合を支援、あるいは蝕むのかについて洞察をもたらす。他の研究は、貧しい人々の日々の生存を支援、あるいは妨げる上で、どの組織が最も重要であるかを把握するためにこうした分析を用いてきた。このプロセスはまた、全体的な順位づけを確認し、その背後にある論理を理解するための探索的質問によって補足すべきである。

図表 8 : 組織分析表

組 織	評 価 基 準 (50点満点で、高得点=よりよいパフォーマンス)				全体的な重要度 (最も高い累積度数: 1位=最重要)
	信 頼	必要時の 支援提供	効果的	意志決定への 人々の役割	
首 長 (headman)	30	30	40	20	120=#2
信用組合 (credit coop)	10	0	5	0	15=#6
教 会	50	15	20	15	100=#3
女性の救済 グループ	50	40	25	50	165=#1
病院など	10	25	15	0	50=#5
警 察	20	20	25	5	70=#4

Source: Poverty Group, *op.cit.*

Dimension 6 : 権限委譲と政治的行動

個人は、自らの福利に直接的な影響を及ぼす組織とプロセスに対する統制手段をもつ範囲にまで権限委譲される。ソーシャル・キャピタルにおける権限委譲と政治的行動に関する局面は、満足感と、個人的な効果、地域の出来事と広範な政治的結果の双方に影響を及ぼすネットワークとグループメンバーの能力を明らかにする。権限委譲と政治的行動は、小さな近隣のアソシエーション内や、より広範な地域や地方、ある

いは国家レベルで起こりうる。それぞれのレベルはそれ自身が重要性を有しており、他のレベルとの関係もさることながら、別々に検討されるべきである。この局面はまた、社会的な境界がジェンダーや民族性、宗教、地域主義、あるいは他の要因と関係しているかどうかについても考慮に入れている。司法当局とメディアの代表者をともなった政治的な労働者のリーダーに対する主要なインフォーマント・インタビューはまた、この側面を調査するのに重要である。

A. 統治 (governance)

①統治形態と影響

- ・コミュニティにおける地元の法的伝統は何か？それらの伝統は市民の能力にどのように影響を及ぼしているか？
- ・どのようなパターンで統治が築かれ、どのような統治構造が市民の能力を形成しているか？
- ・慣習的な法は、公的機関に対する影響力を及ぼすための市民の能力をどのように規制、あるいは促進しているか？
- ・公的な法は、公的機関に対する影響力を及ぼすための市民の能力をどのように規制、あるいは促進しているか？

②公的機関などの責任

- ・コミュニティのメンバーは、公的機関と公務員の行動に対する責任の範囲をどの程度まで考えているか？
- ・個人とグループが地域のリーダーと公務員の説明責任を求めるためには、どういった類の公式・非公式の手段が利用可能か？

③公的機関への影響要因

- ・コミュニティのどのグループやセグメントが公的機関に対して最も大きな影響力をもっているか？
 - ・これらのグループの影響要因（グループの規模、メンバーを集めたりメンバーの基盤を拡大する能力、権力中枢へのコネクション、経済的に重要な地位など）は何か？
 - ・どのグループが最も公的機関に対する影響力が少ないか？そしてなぜか？
- ここでの考察は、様々な社会グループの政治的参加（参加と組織化、投票、リコール、ないしは公務員の説明責任を果たさせる権利）に影響を及ぼす公的・慣習的法に関する机上調査によって補完できる。

B. 組織分析

①公的・非公的機関の特性と関係性

- ・コミュニティにおける公的・非公的な組織の一覧をつくるために回答者に質問をする
- ・コミュニティ内で互いに相対するこれらの組織の影響力や、アクセス可能性、

重要性には何が関係しているのか？

・様々な組織の間はどのような関係になっているのか？

②公的・非公的機関への影響力

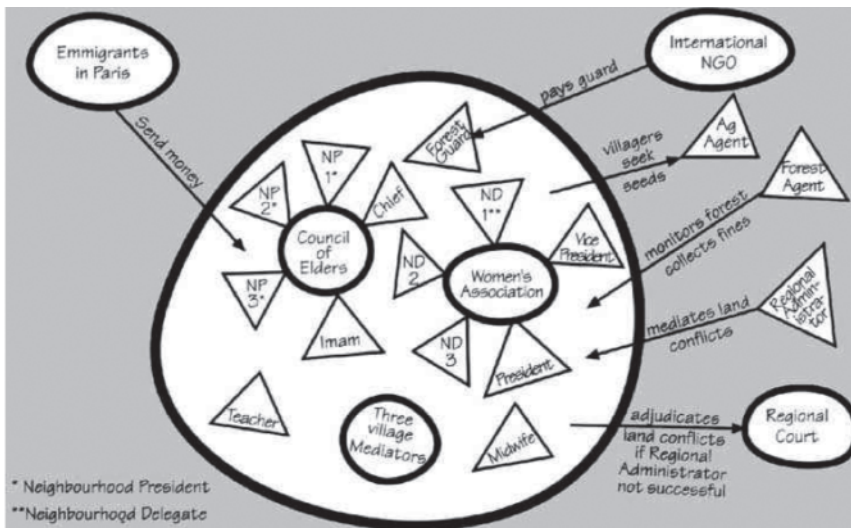
・コミュニティのメンバーは公的かつまたは非公的な組織に対してどのような影響をもっているか？

C. 権限委譲と政治的行動を把握するための他のグルーピング法

①ベン図 (venn diagram)

ベン図は、公共サービスとプログラムの相対的重要性に対してだけでなく、権力構造と意思決定プロセスに対する価値ある洞察をもたらすことから、組織分析を補完する重要な手法である。こうした図では、組織や個人を表すために様々な大きさの円が用いられる。円が大きいほど、その組織や個人は重要になる。円と円との距離は、組織や個人間の影響や接触の程度を表す。円と円の重なりは、相互作用のレベルを示す重複の度合いで組織間の相互作用を示唆している。

図表9：ベン図



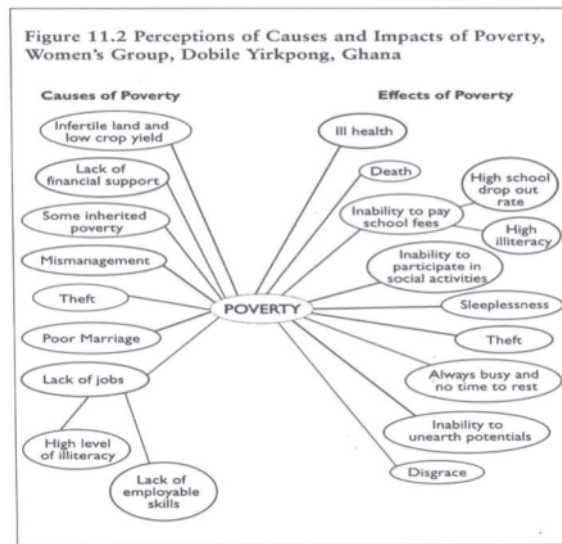
Source: James T. Thomson and Karen Schoonmaker Freudenberger, *op.cit.*

②因果関係図 (cause-and-effect diagram)

因果関係図は、あるグループが、どれだけ多様な問題が相互に関係しているかを選別し、それらを解決するための統合されたフレームワークを開発するための手助けとなるもうひとつの効果的な手法である。グループは、所与のコミュニティにおける日々の生活に影響を及ぼす問題に関するブレインストーミン

グのプロセスから始める。彼らが作成するリストにもとづいて、グループは問題間の因果関係を視覚的に配置させる。この手法は、思慮深い議論を導き出すための手助けとなるとともに、共通の利点を確立するのにも役立つ。それはまた、福利とソーシャル・ネットワークにおけるジェンダーの差異を明確化するために用いることのできるいくつかの技法のひとつである。

図表10：因果関係図



Source: Narayan Deepa, Robert Chambers, Meera Kaul Shah, and Patti Petesch, *Voice of the Poor: Crying for Change*, Oxford University Press, 2000.

3.まとめ

本稿では、ソーシャル・キャピタルの質的調査法について、*Analyzing Social Capital in Context*と関連する他の調査方法を取りあげて整理し、今後の質的調査におけるガイドラインとなるべく要点をまとめていった。

*Analyzing Social Capital in Context*は、基本的に途上国におけるソーシャル・キャピタル調査を念頭において設計されていることから、この分析的フレームワークを先進国での調査に応用するためには若干の修正を図る必要がある。また、同じ先進国であっても、地域特性や社会・経済的課題によって調査の設計にも修正を加える必要がある。先進国や途上国に関わらず、様々な国や地域をまたいで横断的な調査を行う場合には、各地域に共通する調査項目と、地域特性に合わせてアレンジすべき項目とを設けることで柔軟に対応していくことができるだろう。今後は、先行研究で示された質的調査法を発展的に応用していくための手法について検討していくことが課題とな

る。特に、日本のように、長期にわたる低成長経済のなかで少子高齢化が進み、地域社会の紐帯が薄れてきている社会における質的調査のあり方や、同じ日本国内でも大都市や郊外、地方都市、限界集落など、地域特性に合わせた調査手法について検討していく必要がある。同一国内や地域圏内でも、市区町村や町内レベルではソーシャル・キャピタルの蓄積度は異なることから、その分布を把握し相違を明らかにするためにも、調査手法の様々な応用可能性を検討することは意義のあることと考えられる。

参考文献

- ・ Christiaan Grootaert, Deepa Narayan, Veronica Nyhan Jones, Michael Woolcock, 'Measuring Social Capital: An Integrated Questionnaire', World Bank Working Paper No.18, The World Bank, 2004.
- ・ Deepa Narayan, Toward Participatory Research, World Bank Technical Paper No.307, The World Bank, 1996.
- ・ Rebekah Doyle & Marianne Krasny, 'Participatory Rural Appraisal as an Approach to Environmental Education in Urban Community Gardens', Environmental Education Research, Vol. 9, No. 1, 2003.
- ・ National Environmental Secretariat, Egerton University, Clark University, Center for International Development and Environment of the World Resources Institute, Participatory Rural Appraisal Handbook: Conducting PRAs in Kenya, Natural Resources Management Support Series No.1, 1991.